

第 6 回 橿原市小学校通学区域検討委員会 会議録

日時：平成 20 年 10 月 29 日（水）午後 2 時～

場所：かしはら万葉ホール 3 階 教育委員会室

【出席委員】 9 人

喜多俊幸・吉田明史・中井靖教・横尾敏雄・氏田節子

奥田英人・西村宗男・杉本和子・松村全計

【事務局】横山教育総務部次長・中西教委総務課長・吉田学校教育課長補佐・

栗原教委総務課長補佐・米田学校教育課指導主事・

吉田学校教育課指導主事・龍田学校教育課主事

（事務局：横山）

第 6 回橿原市小学校通学区域検討委員会を開催いたします。

（喜多議長）

皆さん、こんにちは。昨日位からたいへん寒くなってきましたが、各委員の皆様には健康に留意されまして、ご活躍の事と大変うれしく思います。

さて、本日は、この会議にあたりまして、杉井委員・工藤委員・岸田委員・田ノ上委員が、所要の為欠席のお届けを頂戴しております。吉田委員と吉村委員につきましては、少し遅れると連絡を頂いておりますので、この会議が設置要項 5 条 2 項にてらしまして、会議成立する事を宣言したいと思います。

次に会議の運営方法についてですが、議事事項が非公開事項に抵触すると見込まれるものについては、審議に入ります前に一部または全部の公開につきまして、皆様にお諮りをしているところですが、事務局からその点についてご説明お願い致します。

（事務局：横山）

今回、ご審議頂く内容につきましては、本日次第の事務局による説明資料及び討議につきましては、具体的な町名等が出てきますが、公開してもとくに支障がないと思われますので、公開の審議になろうかと考えております。

各委員のご了承を宜しくお願いします。

（喜多議長）

ただいまご説明された様子ですので、この会議は公開をするということで、ご了解をお願い致します。

本日の傍聴希望者はおられますか。

（事務局：横山）

おられません。

（喜多議長）

それでは、早速ではございますが、議事に入らせて頂きたいと思います。

本日は、小学校区検討に関する中間まとめにおけるパブリックコメントに対するご意見

を頂戴しておりますので、意見に対する交換になります。中間まとめにつきましては、前回の会議にご了解頂きましたように、8月25日～9月16日の間に、パブリックコメントを求めたところです。

本日の会議は公開ですので、個々の学校名・町名等がコメントの中に入っていますので、それらの取り扱いにつきましては、注意して頂きますようお願い致します。

中間まとめに対する市民の方々よりのパブリックコメントに対しての意見交換ですので、その内容につきまして事務局より説明して頂きます。

(事務局：米田)

最初に資料の訂正をお願い致します。資料番号24としてお配りしておりますが、資料番号は25になります。訂正の方宜しくお願い致します。

《資料25参照》

8月25日から9月16日の間に中間まとめに対する意見を募集しましたところ、期間内に5名の方から、また期間は過ぎているが、あえて意見を加えて欲しいというのが1件ありました。5名の方の意見につきましては受付順に資料として提示させて頂いております。あと、1件につきましては、口頭で述べさせて頂きたいと思います。

ほとんどの意見は、すでにこの検討委員会で議論されてきた内容が多く含まれ、検討がすでになされているものがありますが、また本日はそれに対する意見交換という事で宜しくお願い致します。

まず、1ページ目は、通学の安全性で、歩道橋があるもののバイパスを越えて通学している。近くに隣接校があるというケースです。通学距離・時間にも関係してきます。検討委員会では地域との繋がり的重要性を考え、自治体の意向を尊重していくということで纏まっており、中間まとめにも載せていましたが、この意見は自治会と通学は切り離して考えて欲しいという意見です。また、検討委員会では、学校選択制を前提にした議論はしないということで、議論がなされてきた経緯がありますが、学校選択制を導入して欲しいという意見が挙げられております。

2人目、2ページ目の意見です。これも通学の安全性に関係してきます。交通量の激しい側道を通っての通学、将来は、一人で通学しなければいけない状況が出てきます。近くに隣接校が存在する。しかし、自治会のさらなる分断という状況が生まれてくるというケースです。

3ページ目の意見です。通学距離、交通量に関する意見です。隣接校に通う方が近い、また、学校教育外の学童保育の件が挙げられています。学童保育と学校の関係については、切り離して考える必要があると思います。

4ページ目の意見です。通学方法、手段に対する不安。また、将来的に近所で一緒に通う児童がいなくなるという意見で、学区での境界地域は学校選択ができるように、通学バスや通学タクシーの導入をという意見です。もうひとつ、親の出勤時間に合わせて・・・という意見がありますが、検討事項にはあたらないと考えています。

5ページ目の意見になります。通学距離についての意見です。この方は地図も付け加えられての意見です。隣接校が目の前にあるにもかかわらず、遠くの学校に通学しなけれ

ばならない。また、新興住宅地で校区が分断されるときは、配慮して欲しいという事で、新しい住宅開発によって建てられてくる地域にあたっております。

最後ですけれども、期間を過ぎながら、あえてお願いしますと頂いた意見は、この意見も、通学の安全性にかかわり、交通量の多い国道を、横断し通学しなければならない。回避して隣接校に通わせたいという意見でした。もしくは、安全面からスクールバスの運行を、という希望が出されておりました。

意見の内容をまとめておきますと、一つは自治会組織と小学校の通学区域は、切り離して考えて欲しい。学校選択制、市内の希望する学校への選択を認めて欲しい。通学区域は残したままで、隣接する区域の学校への就学を認めて欲しい。それから、学童保育に預けるため、預かり先の住所地の学校に通学させたい。新しく整備された基幹道路以外でも、交通量の多く危険なところがあるので見直して欲しい。という意見が出されており、このように纏まってくるかと思います。

すでに、この検討委員会で議論されました内容にも多く関係してくると思います。ただ、市民の皆様を示した中では、資料等が公開・非公開になっている部分もあります。その様な点につきましても考慮しながら、中間まとめに対する、本日のご意見の方宜しくお願い致します。

(喜多議長)

それでは、事務局の方から、パブリックコメントを寄せられました 5 件についての内容・特徴についてご説明いただきました。また、この期間中では無かったですが、後でぜひ参考意見にして欲しいとの 1 件を受理したという事で、その内容についても説明を頂きました。

今、事務局から説明がありました通りですが、これまで、地図に町名をおとしまして、今説明があったような事については、これまで審議を行ってきた過程をもっておるのではないのでしょうか。

要するに、一つ目は、地域の自治会組織区域と小学校通学区域を切り離して考えて欲しいという、選択制の話だったかと思いますが、樫原市教育委員会としてもこの検討委員会としましても、選択制、自由選択については取り入れないという事で、そこについては触れないで審議して頂いてきました。

二つ目の、学校選択制を導入して。という事で、これも前者と同じことです。

三つ目は、通学距離とか、学童保育との関係がありましたが、学童保育については、この会議では出てこなかった、新しいご意見だったかと思います。学童保育と通学区域は、制度上別の話になると思います。学童保育の事まで取り上げましたら、通学区域につきまして錯綜してしまうかと思いますので、ご意見として頂戴しておくということで良いのではないかと思います。

バスやタクシーの通学手段についてのコメントを頂きましたが、これにつきましても検討委員会の中で俎上に上ったものでございますし、これにつきましても、通学路整備をしていく中で、事務局の方で具体的に施策をしていく内容として、取り組んで欲しいというまとめになっているのではないかと思います。

新興住宅地が話しに出ていましたが、新興住宅地につきましては中間まとめの中で、イ)・ロ)・ハ)のハ)の中で通学距離を短縮する方向で検討する際、地域を分断することへの影響を十分考慮し検討すること。という事で、似ている地域で、検討頂いたのではないかと思います。

今までの検討結果と、お寄せ頂きましたコメントにつきましての整理をさせていただきましたが、これらもお含み頂きまして、皆様からのご意見を頂戴できたらと思います。今、お聞きしておりますご意見で、岸田委員から本日の欠席に伴いまして、文面で意見を寄せて頂いておりますので、まず報告を頂ければと思います。

事務局お願いします。

(事務局：米田)

岸田委員の方から、本日の中間まとめの意見に対しての意見を述べさせて頂くと、FAXを頂いております。全文を読み上げれば良いのですが、時間の都合上かいつまんで内容だけ述べさせて頂きます。

まず、保護者として子どもが6年間通うことを考えましたら、少しでも近くの小学校に通わせたいという願いがあるのは分かります。と保護者の思いを受け止められた上で、しかし、現在樫原市の通学区域のルールである以上、近くに小学校があるにしても、決められている学校に通うのが、当然だと考えておられます。

そして、今回の意見を今まで検討委員会で言われてきた、各委員さん方の意見でも述べられていた様に、今以上に町の分散につながるようになってしまうのではないのでしょうか。そして、5件の意見を受け止めたならば、校区の自由化を考えなくてはならなくなり、学校と地域の関係が無くなってくる。そしてまた、児童数把握の困難が生じるという事を挙げられています。

また、通学に通学バス・タクシーの導入という意見もありますが、距離面・費用等の発生がありますので、これは検討していかなければならないのではないのでしょうかと、書かれております。

まとめとしまして、現時点では現行のままで通学区域の変更を考えず、学校建物の寿命・建て替え時の事を考え児童数の減少している学校・子どもの過疎化している小学校・中学校をどうして行くのかを話し合って頂きたい。という言葉で結ばれております。以上報告終わります。

(喜多議長)

それでは、皆様から意見を頂戴したいと思いますので、宜しくお願い致します。

少々時間をとらせて頂きます。

(氏田委員)

よろしいですか。

(喜多議長)

はい。どうぞ。

(氏田委員)

ごく普通の事ではありますが、何時の世に及んでも検討する節は同じで、近隣町の小学校

へという思いで、例えば雲梯町だと隣に寺田町があり、寺田町は真菅小学校に行き、雲梯町は金橋小学校へと、ずっと何時の世も続いてくると思います。そのことを認めると、市としては混乱してしまうというのは、良く分かるのですが、この件は常に問題になってくると思います。整理はしにくいと思いますが、その柱を持ってこの委員会があり、自治会と切り離しという部分も分かるのですが、どうも真綿で首を絞めるという様な感じもあり、それでもってこれからの児童数の少なさをみていたら、この検討委員会も30年ぶりに開かれているものの、今後、先の事を見据えてディスカッションしていかなければならないのですが、先程申したように、隣同士の町でありながら、別々の小学校へ通うというのは、ずっと続く問題だと思います。

榎原市は無くなる事が無いですし、その部分が常に私自身どうすれば良いのか。教育委員会を柱の芯に考えてはいるものの、私も17年間学校教育で関わってきた中でも同じことが課題です。どのようにすれば良いというのが、口では表現できない。

(喜多議長)

この件は多くのご意見を頂いた問題です。自治会との関係、校舎等の収容能力の問題、学校選択制などの問題で、皆様に議論をして頂き、頭を悩ませて頂いたところで、結論的に纏めて、イ)・ロ)・ハ)・二)の形になった事と思いますが。このことも含めまして、ご意見を頂戴できたらと思います。

(横尾委員)

今、この5件ございましたのは、以前からこの検討委員会の中で議論されていたことに含まれていると思いますし、特に配慮事項につきましても、自治会との意見交換を尊重しながらと書かれておりますので、この5件の方は、自分のことだけを考えているという点で、もう少し大きく考えて頂いたら、このパブリックコメントで答えが出ているのではないかと、私は思っているのですが。

パブリックコメントを尊重して頂いたら、ありがたいと思います。

(喜多議長)

議論してきた内容について、個々の問題、個々の目線で見た意見ですのでもっともな事なのですが、しかし、地名も地図の中におとしまして、検討してきた事ですので、実施する時に配慮して頂きたい事柄で良いかと思います。

氏田さんが、仰って頂いた、どうしても乗り越えなくてはならない事柄が、残ってくると思われます。

(中井副委員長)

今、自治会との連携・協調が非常に大切になって、注目されて来ている。これは、必然的に地方分権・地方主権という事になれば、この様な状況になってきて、地域が自らの町を作って、自分たちで支えあう事が、主旨なのではないでしょうか。

具体的に、地域と学校との連携という事に対して、非常に教育委員会も行政当局も注目しているというより、むしろ、地域に対して期待しておられる。そして、施策として地域に対して、子どもの安全という事になれば、一番大きな課題ですが、地域が子どもたちの見守り活動という事で、登下校に関しても青色安全パトロールというような色々な

事もさせて頂いておりますし、各自治会の有識者が子どもたちに角・角における誘導をやっておられる地域も多いという事です。

それと、どうしても避けきれない事は、人権教育推進協議会という大きな課題があります。それからもう一つは、地域福祉推進委員会というこれも大きな地域・学校との関わりがございます。そして今、盛んに文科省の事も含めて、教育委員会も色々生涯教育を含めて、高齢者は勿論、むしろ、少子化する学校に対して、PTA の代表の方も来ておられるかと思いますが、保護者の今までの学校に対する PTA 活動・推進が様変わりしている。地域で時間のゆとりがある人たちが、学校に入って、学校を支援してあげて欲しい。この様なことを社会教育から推進されている。このことにおいて、地域学校支援活動という事で、すでに実施しておられるという事です。これも、地域と学校との大きな関わりである。

もう一つ大きな事は、防犯・防災・自主防災であります。この様な事となりますと、学校区域単位で取り組んでいかななくてはならない、という事がございますので、例えば、隣接する境界線を越えて、他の学校に行っておられた時に、その人の所在・存在・関わりが取れなくなる。その人はそれで良いとして、隣接する学校に通うという事だけを認めても、先ほど申しました、地域と個人のお互いの連携、その人と地域が支えあうという協力が希薄になってくるのではないのでしょうか。

どうしても、自治会という訳ではないのですが、大きくは地域という括りの中で、学校を中心として、エリアの中で協力していかななくてはならない。という事が、今後の大きなさらなる課題であります。

先ほど、横尾さんや氏田さんが仰っておられた状況の中で、それぞれが、近くに学校があるのに、と言われる気持ちは分かりますが、果たしてそれで良いかという事では、非常に難しいと思います。今後もよく考えて頂きたいと思います。今まで、検討してきた事の中に入っていることでは、改めて地域との関わり大切さを述べさせて頂きました。

(喜多議長)

他の方がいかがでしょうか。

今、中井副委員長の話で、パブリックコメントに対する見解が述べられたのではないのでしょうか。やはり、自由選択制について意見が寄せられておりますが、地域との繋がりの中で、これまでもこの会議で検討してきたのですが、整理をして頂きまして、子どもの安全への地域見守りの観点。地域福祉、親同士の繋がり。この様な観点から、もう一度整理をしてお頂きました。特に、人権教育とか地域福祉の取り組みの実態から、今後の生涯学習社会の構築していく場合の地域との連携。今までは、学社の連携でしたが、融合的な事業を進めながら、学校と地域との繋がりを持つ方向が、国の施策としても打ち出されてきている様な状況、また防犯や防災の観点から見ても、この寄せられました選択制につきましては、気持ちの上では分かりますが、中間まとめで出されております意見の方向性でいけば良いという整理を頂いたと思います。

PTA との繋がりの中でという事です、いかがでしょうか。

(西村委員)

今、幼稚園や小学校、特に幼稚園の先生は大変少なくなっておられますので、保護者の方が、学校行事の運営準備で朝から夕方までかかって、父母で用意されているみたいです。小学校に関しても、幼稚園ほどではありませんが、地域でいいですよと、鴨公小学校なのですが、一昨年まで町内といいますか、学校区域の町を交えて、鴨公フェスティバルというお祭りを、ずっとやっていたのですが、当初は上手く進んでいたのですが、若いお母さん方と地域のご年配の方との意見が合わなくなったので、結局、祭りは同じ月の別の日に、鴨公地域フェスティバルと鴨公小学校フェスティバルとするようになりました。地域の活動としまして、良い形で進んでいたのですが、やり進めているうちに、お互いの意見があり、地域はもっと地域性を出したい、などの意見が出まして、現在は別々の日にやっておる訳ですが、その様な中でも、小学校が地域を巻き込んでというような形は難しいと思います。学校の若い世代のお母さん方と、地域の代表のご年配の方と意見の相違があって結局出来なくなりました。地域からお金も出して頂いているのですが、今は小学校に半分、地域に半分という形で出して頂いている状態になっています。

(喜多議長)

現状について、お話を頂きました。今後の方向的には地域との繋がりを考えていかなく
てはいけません。

(西村委員)

地域との繋がりは、大事だと思います。地域と共に・・・のような活動をしているのですが、しかし下校時などは立哨を、仕事を退職された方が、曲がり角などに立って頂いています。その様な面では、地域仲良くして頂いています。その様な地域の方の助けが無かったら、最近働いているお母さんも多いですし、下校時の立哨についても大変です。

(喜多議長)

いかがでしょうか。

(奥田委員)

西村さんの意見も分かるのですが、私は、地域の方々と連携して、ボランティア・青パト・地域の福祉委員の立哨、地域の方々と PTA が連携を取って、子どもの登下校を見守るなど、地域として地域の方々と連携していきたいと思います。自治会との一体化という様な事で考えて頂きたいと思います。

(喜多議長)

はい。ありがとうございました。幼稚園の方はいかがでしょうか。

(杉本委員)

幼稚園ももちろん小学校と幼稚園の連携やまた、家庭や地域との連携を大切に考えています。幼稚園の子どもの場合、年齢が幼いですので、通園距離に対しましては、パブリックコメントにかかれております様に、それぞれが、もっともな意見だと思います。大人の人が 30 分かかかる所なら、子どもなら 40 分～45 分かけて歩いて来る子どももいます。また、通園の時間が長くなる事によって、今まで地域で纏まって、当番制で歩いて送り迎えをされていた方が多かったのですが、最近は個人で送り迎えをするという方が

多くなってきました。近所の子どもを連れて長い距離を登園するのは心配なので、個人的に車や自転車で送って来るという方が増えてきました。すると、余計に地域との連携が取りにくくなってきていると思います。

結論的には難しいのですが、やはり小学校と同じように地域との連携を大切にしていかなければいけないと思います。最近のお母さんは、地域の連携よりも、自分自身と気の合う人、子どもの習い事が同じ、お母さん同士が友達、という繋がりの方が強くなってきている様に思いますので、もっと地域に根ざした幼稚園を作って行きたいと思っています。

(喜多議長)

吉田さんはいかがですか。

(吉田副委員長)

パブリックコメントに対する意見は、横尾委員さんも仰っていました様に、基本的に私たちが考えていた方針の枠をはみ出るものもございませんので、パブリックコメントそのものが、認められているという感じのコメントと読み取らせていただきました。

中には、学校選択制であるとか、自治会との関係について触れられているのですが、例えば、地域との連携という事は校区の問題なのか。必ずしも私は、そうではなく、保護者の意識がずいぶん変わってきているのではないのでしょうか。今、お話にも出ましたが、気の合う者同士だけ仲良くする。地域・村でお祭りをしていても関心を持たない保護者も実際にはいらっしゃる訳で、学校校区の問題というよりは、自治会を中心とした社会教育にウエイトをおいて考える必要があるのかと少し思っています。小学校が核になって、色々な行事がなされていることが、大切なことですが、それだけでは中々背負いきれない時代になっているのかと思います。校区の問題につきましても、私たち色々方針の柱を立てて議論をして参りましたし、先程も言いましたように、一定の柱の枠の中でご意見を頂いているかと思いました。

学校選択制につきましては、非常に難しい問題ではありますが、いずれ道州制が導入されるかも分かりませんし、市町村の単位が崩れてくると学校選択制の時代が来ると思いますが、その様な視野を持つておくのは大切な事だと思います。地域の子どもがいつも自分の学校に来るという学校経営をするのと、この学校に来て欲しいという思いで学校経営をするのでは、学校長の思いも変わると思っています。その様な意味で、学校の活性化では、その様な時代が来るのかという思いでいます。

しかし、今の時点では子どもの安全という事で、私達は校区を考えてきましたので、従来どおりの方針にそって答申を出して良いのではないのでしょうか。

(喜多議長)

行政の方からは何かありませんか。

(松村委員)

先程も色々地域の大切さを話しされていると思います。元々学校というのは、安全・安心という所でありました。ところが、池田小学校の事件以来、学校の安全・安心は無くなったという中で、特に地域の連携が必要になってきたという形なので、これからの教

育については、地域と学校が共同で子どもを育てるというのが基本に据えたものになってくると思います。地域を中心とした学校にしていきたいと思います。

(喜多議長)

パブリックコメントの中では選択制の話が出ていますが、これにつきましては既に議論した部分もありますし、特に今日のご意見の中では地域との連携という事を考えていかなければならないという事で、選択制については、この検討委員会では、触れて答申をしないという結論を出させて頂きたいと思います。従いまして、今ご意見頂きましたような地域との連携等の整理につきましては、次に全体の整理をしていく中で、特に自治会との、配慮事項の中で②に入れて頂きますが、必要であれば少し強調して答申を出させて頂いたらと思いますがいかがでしょうか。

宜しいでしょうか。

それでは、パブリックコメントを含めたご意見は以上であるかと思しますので、その他でご意見はありますでしょうか。

先程の岸田委員の書面での意見で、取り上げるのを忘れていたのですが、前半部分につきましては、すでに協議をしましたが、将来的に学校の建物とか、児童数について勘案しながら進めるというご意見だったかと思えます。もう一つは、中学校との関係との事で、述べて頂いていたと思いますが、児童数・建物・収容能力等につきましては、すでにデーターを出してご審議頂いたと思えます。前提的にはこれは恒久的なものではなく、必要に応じて見直しをしていくという前提でもありましたので、そのことでクリアして頂いたらと思えます。中学校との関係につきましては、色々なご意見を頂きましたが、この検討委員会では小学校の通学区域の検討という事にポイントをおいていますので、岸田委員につきましてはこの様にご理解頂きたいと思えます。

それでは、他にご意見ございませんか。

本日の議題一つ目につきましては、この様にまとめさせて頂きたいと思えます。

続きまして、次回会議の日程についてですが、当初は予定では、次が第 7 回目で答申をする内容の確認という事で、12 月の予定になっております。

私の方からの提案をさせて頂きたいのですが、後 1 回で内容をまとめて頂いて、教育長に答申書を手渡さなくてはなりません。事務的にも押し迫っておりますので、この前の中間まとめと、頂きましたご意見を、私と副委員長でまとめさせて頂きまして、また事務局の方にもまとめて頂いて、各委員さんに答申案を送付させて頂きますので、ご覧頂いてご意見を頂戴しまして、それに基づいて成案を作り、次回に総括して、その日の内に教育長さんに答申が出来たらと考え、提案をしたいと思えますがいかがでしょうか。おおよそ中間まとめでまとめて頂いておりますので、そこに前文や今日ご意見を頂いたものを包括したつもりですが、この様な形で進めさせて頂いて宜しいでしょうか。

それでは、そのように図らせて頂きます。

それでは、答申案をまとめるにつきまして、特にこの点については、入れておくべきというご意見を頂戴出来たらと思えます。

中間まとめでおおよそその事が入っていると思えます。副委員長さんから頂きました「地

域との連携」というのは、今日の話にも出ておりますので、どこかに盛り込む必要があると思います。

(吉田副委員長)

今回のこの検討委員会で、校区の再編という事で、十数年ぶりに開かれた訳ですけど、やはり実態に合わせて校区を考えようと、英断をくだされて、私たちは諮問を受けたのですが、これが未来永劫かというとはそうではなく、いつかはまた考えなくてはならない時期が来ると思います。その時にどの様な要素が出てきたら考えるのか、という事を少し触れておく必要があるかと思えます。そのようにしないと、このまま未来永劫続くのかと不安も出てきます。何が今回の委員会を始めるに至ったのかという要因を少し整理されて、そして答申の末尾でも良いので、「この様な状況に至った時には必要に応じて委員会を開催する」という事を入れておけば少し安心するかと思えます。それが 20 年先か 30 年先かは分かりませんが、きっと、諮問を頂いた中に書いてあったと思いますので、もう一度書くという事になるかも知れません。

(喜多議長)

私の方からもう一つあります。

前回、この様にまとめましたが、その前段と致しまして盛り込むかどうかは別として、「現在の通学路の安全・安心の点検をして、改善できるところは改善して、そのうえにたつてこの答申を尊重して欲しい」という様な趣旨を入れさせて頂けたら、これまでご審議頂いたことが、生きてくるのではないかと考えます。

(中井副委員長)

教育委員会に少し聞きたいのですが、パブリックコメントをされた時に、この検討委員会で出している中間答申ですが、この答申ではダメなのではないか、例えば、具体性に欠けているのではないかという様な意見、私たちが知りたかったのはこの様な事だ、と言うようなご意見は無かったですか。

(事務局：横山)

御座いません。

(中井副委員長)

何ゆえに、この様な検討委員会を持たれたか、という事と、今後人口動態・社会情勢が変わってくる時に、この様な検討委員会を持つ事になるだろうけれども、今期その様な批判が無かったという事は、ありがたかったということでしょう。

(氏田委員)

後戻りする様な事で申し訳ないのですが、この検討委員会の中間まとめで出てきた意見で、3～4 人の全体から見たら小数意見ですが、もっと各小学校 16 校の中で保護者の方が同じような事を思っておられる人は、沢山おられると思います。学校教育としても、校長会などの機会に話し合いをしないと、保護者の中では、普段の生活をおこなっている時も、困っていると言う意見交換を保護者同士でおこなっておる事は確かだと思えます。その様なことを、各学校の校長先生は学校教育に言う様にして頂かないといけないと思います。

(事務局：横山)

もう少し具体的にお願いします。

(氏田委員)

検討委員会自体は、良いまとめもできて良いのですが、もう少し、多人数でもこのパブリックコメントに意見を出してくれると良いのですが、やはりインターネットを持っている方も多くないのかも知れませんが、知らない方もおられると思います。学校教育が資料公開をして、それを閲覧されている方もおられるでしょうが、知らない人が沢山おられるのではないかと、私は思いますので、校長会は月に 1 回ありますので、学校長が各学校の PTA に個人的意見があると思うので、学校長はその意見を聞いておられないのでしょうか。

(事務局：横山)

校長の方に、保護者から意見等が寄せられていないのか、という事ですか。

(氏田委員)

はい。

(事務局：横山)

それは、色々あると思います。この検討委員会の中でも話し合いはされたと聞いています。

(氏田委員)

校長の方では、話し合いはされているという事ですか。

(事務局：横山)

検討委員会から出た内容を保護者に伝えているか、という事ですか。

(奥田委員)

この事は、校長から生徒へという事は、出していないと思います。私、保護者として子どもから何も聞いていないし、学校からプリント等も貰っていません。

(氏田委員)

私が言いたいのは、主婦の立場として、私たちの孫の世代で少子化になって行くというものの、人数が多くなるかも知れないし、校区外から通うというのはいけないことです。しかし、この問題が出ているということは、保護者の中で多く思われている事だと思います。

(事務局：横山)

今、委員さんが仰っているのは、検討委員会でどの様な話し合いがなされているかを、校長会に教育委員会より話を下ろして、校長の方から保護者に伝えて欲しいという事でしょうか。

(氏田委員)

校長会は、検討委員会があるというのは、ご存知なのでしょうか。

(事務局：横山)

校長会には、検討委員会があるというのは知らせています。検討委員会での話し合いの内容についてまで詳しくは知らせておりません。

(喜多議長)

このご意見は、以前に検討の中でも頂きましたが、個々について話し合いをしていまして、纏まりがつかみませんので、総論をまとめていくという事で、後は施策に係わった場合は、教育委員会事務局で手続きをとって貰います。その様なことから、私共から教育長に、諮問に対し答申を出しましたら、答申に基づいて行政的に、事務局の方では校長会に話を下ろすなど具体的な事柄ができてくれば、住民の合意形成を得るために意見聴取をするなど具体的に進めていく部分だと思います。

氏田委員がおっしゃっておられるのは、中間まとめのところで、地図上にあてはめて全ての意見を載せられたものだと思いますが、それは今後の教育委員会事務局での施策の推進の中でご考慮して頂けたらと思います。

その他のご意見はございませんか。特に答申の中で強調しておくべき事。

(杉本委員)

特に答申に付け加えてという訳ではございませんが。

上品寺町の地図を見たら、一角だけが地黄町になっている。地域との関係もあるというのは分かりますが、新しくできた住宅との繋がりになるのか、私自身良く分からないのですが、これから先もこの様なことが起こるのではないのか。新しく住宅が開発されてくると、町を跨いでマンションを建てられる事もあるのではないのでしょうか。その時にマンションの右半分、左半分で通う学校が違ふという様な事例が出てくるのではないのでしょうか。

(喜多議長)

そうですね。この様な事例が出てくるかとも思いますが、審議の中でもこの様な事柄のとき自治会単位とするのか、町単位とするのか、という意見も出ておりました。その事も踏まえながら、ご意見を拝聴できたと思います。

それでは、先程提案させて頂いた形で、このまとめをさせて頂きますので宜しくお願い致します。

この事柄を踏まえながら、次回最終回になりますので、事務局の方から説明等を頂きます。

(事務局：横山)

次回、第7回統括審議につきましては、12月の予定をしておりますけれども、役所の関係で申し訳ございませんが、12月は議会開催月になりますので、日程調整ができるかどうか判りません。1月になってしまうかも知れませんが調整させて頂きまして、ご連絡させて頂きます。第7回目を開く前に委員長・副委員長さんに集まって貰いまして、打ち合わせ・まとめを出して頂いた段階で、次回日程を決めさせて頂きたいと思いますので、1月になってしまうかもしれないことをご了解頂きます様お願い致します。

(喜多議長)

それでは、その様にお願い致します。

その他で、事務局の方から何かありますか。

皆様何かございますか。

(事務局：横山)

特にございません。

(喜多議長)

以上を持ちまして、第 6 回小学校通学区域検討委員会を終了させていただきます。

ありがとうございました。